

家庭医育成へプログラムを作った徳島大学大学院教授



谷 憲治 さん



複数の病状を併発しやすい高齢者には総合的な診療ができる家庭医が欠かせない。しかしこれまで徳島県内では総合医療を学ぶ場がなく、やむなく県外に出て行った医師もいる。家庭医の必要性を広く訴えるとともに医師の流出防止を図るため養成プログラムを作った。「専門医として秀でたものを持つことは大事。加えて総合的な診療能力を身に付けてほしい」と思いを語る。

1986年の生まれた体格からは想像できないが、幼少期は体が弱く、よく風邪をひいて熱を出していた。生まれ育った神山町鬼籠野は無医地区。母に連れられ隣の医院までバスに揺られて通った体験から「医師の少ない地域に貢献したい」と誓った。

1975年、徳島大学医学部に入学。総合医療を志したが、周りは専門医志望ばかりで「専門医こそが医師の使命という雰囲気。気が付けば呼吸器内科の専門医になっていました」。

1986年、徳島大学大学院に総合診療を学ぶ地域医療分野が開設された。「今から自分が学ぶのは難しいが、若手の育成ならできる」。大学に残り、地域の医療を担う人材育成に貢献しようと決めた。

家庭医育成プログラムに着手したのは2年前。地域医療に理解のあった県立海部病院(牟岐町)と連携、3年間かけて内科や外科、産婦人科などの臨床研修をする内容にまとめた。既に3人が取り組んでおり「課題を浮き彫りにして内容をさらに充実させ、多くの医師が参加してくれるプログラムにしたい」。

写真撮影と天体観測が休日の楽しみ。写真は写真専門誌に採用されるほどの腕前だ。天体観測では満天の星空を写真に収め、故郷の夜空を思い出して心を癒やす。3人の子どもは家を離れ、徳島市名東町3で妻と2人暮らし。55歳。(大塚康代)